

R-18
adult only

SPRING FRAGRANCE

PART 2

LALIBERTE









めまいがするほど
強くて汚い匂い…

下の玉も
忘れるな

うむ…
呑み込みが早いのもう

ハハハッ
教え甲斐があるのう



イモコ
李夢龍か…
くくくつ…



既に合格しているとしても
わしと張り合いたけば

寛大な気分にな
ってしまおうのう

だけど
お前の乳房に
包まれると

わしがその気になれば
その若造を不合格にするのも
容易いこと

御史※の馬牌※くらいは
持つてこないと
話にならないじやろう

さあ
わしの子種じゃ
受け取れイ!!

ギュッ♡

おあん♡
ビュルッ
ビュルッ

おあ♡

あ♡

※御史：王の特命を受けた隠密検察官
※馬牌：御史の証

二年も戻っていない
ということとは
落第し続けている
ということじゃろうな

旦那様なら必ず
成し遂げて下さる

さあ
口を開ける

全部飲み

何年かかろうと…
必ず…

無駄な希望は
捨てるのが
身のためじゃ

夢龍モンリウの記憶は徐々に
お前の中から薄れてゆき

肉欲だけが残る
じゃろうからな

体は汚されても…

旦那様への…
想いだけは…

怪しからん
牝穴だ

あん♡

くじゅっ♡

内心気になって
仕方ないんじゃないろう

股を開け男を迎え入れる
その感覚がのう

男根を擦れるだけで
濡れ濡れだというのに
よく言えたものじゃのう

男根が欲しいと

我慢…
しなきゃ…

ほら、口にして
はつきり言って
見たらどうじゃ

ああ♡

はあ♡

あ♡

あ♡

陰核が膨れ上がったとる
男根を咥えただけで
交尾の準備が整っておるとは

ち、違います…
そんなことは…!!

うっ…また…
前みたい…

ぐっ♡

我慢…

どうか…中に…
入ってくださいませ

どうか…お許してください

私の不貞を…

旦那様…

欲しいでございます…

男根が…

ドクン

ドクン

ドクン

やめ…!!

クハハハハッ これは
予想以上の一品じゃのう

痛…痛いです!!

おお…
いい締め具合じゃ…!!

い、痛っ…!!

ズブズブ…!!

ギチッ♡

大きすぎて…
中が火傷しそう…

うっ…
うっ…
苦…しい…

じゅるー♡

あ
あ
あ♡

締めりがどんどん
良くなっている…

じっとしてわしの形を
感じてみるといい

はあ♡

奥の方がどんどん
わしに慣れていくのが
分かるじやろう？

本番が始まる前に
わしの形、重さ、
そして温もりまで

全部覚えるのじゃ

つまり…

あ♡

じゅる♡

はあ♡

はあ♡



...

今出発しても一か月は
掛かるだろうに…
船賃はちゃんと
用意してください

わしの専用になる
ということじゃ
くくくっ

さあ
頭を上げて
見てみるが良い

お前の牝穴が
わしの男根を
咥えているのが
見えるか？

痛い…
痛いでぐげいます

痛っ…！

女あ♡

あ♡

あん♡

感じる…
府使様のものが…
中を搔き
回しているのが…！

うむ…！
締め付け方が
分かってきた
ようじゃのう！！

こんな感覚…
変…
息…苦しい…！！

はあー♡

安心せい
慣れるまで何回でも
付き合ってやろう

あぁ♡♡

あん♡

パンパン

痛みが徐々に
快楽に変わって
行くのが分かるか？

あん♡♡

はん♡

時の流れを
忘れてしまうほど

気を失って
取り戻すことを
何度も繰り返し

府使様はそれから
まるで淫欲の獣のように
私の中を掻き回し続けました

パンパン

あぁ♡♡

そしてその日から
府使様は…

ん♡♡

ずっとずっと府使様は
私の身も心も絶え間なく
貪り続けたのです

旦那様との思い出の場所を
教えると仰いました

気が付けば私はいつの間にか
次々と旦那様との思い出の場所で
府使様に可愛がられるようになり

旦那様との幸せな日々を
思い出す度
罪悪感と羞恥心の
大波に襲われるようにな
りましたが

同時にそれはすく〜…
興奮してしまう
経験でした

それから…
府使様の仰った通り…
府使様の男根に
慣れるようになり…

痛みより…
心地いい快感を
覚え始めました



あ♡

気持ちいいところを
たくさん教えられました

はい…っ

そんな風に…
仰らないで
ください…

あ♡

頭では違つと
否定しつつも

…膣の…中が…っ
気持ち良いですっ…!!

ん♡

乳首とか
陰門の奥の方とか

夢龍モンリオンとはこういうのも
したことがないじやろう？

旦那様と初めて
口づけを交わした
あずま屋でも

これからお前の牝穴の奥は
わしとお前だけの空間じゃ

いいな？

どこがどう良いのか
言ってみろ

あ…!!
そこ…!!
良いっ…!!

ん♡

おっと
わしの許可無しで
達するのは許さんぞ？

もう少し慎みを
覚えるんじゃない
くくくっ…

私が絶頂を迎える直前に
行為をやめるようになりました

府使様の男根を
求めてしまう
私自身でした

旦那様との
思い出の場所ですえ

だけど…
ある日を境に
府使様は…

わざとそうしているのだと
気づいてすごく悔しかったのですが
それよりももっと悔しかったのは…

ほれ
早く綺麗にせんか

今日は疲れているから
ここまでじゃ

もっと入れて
欲しいか？
くくくっ…

そんなに男根が恋しいか？

お前の旦那よりも？

ふうっ…!!

またその次の日も…

お願いします…
あと少し…あと少しだけ…
もっと入れてください…

ああ!! 府使様!!
もう少し…もう少しで
行きそうです!!

はうっ!!

今日はここまでだ

府使様は決して
私が絶頂に達することを
許してくれませんでした

次の日も…
その次の日も…

ゆら♡

ゆら♡

ぽん♡

はあ♡

あ♡

はあ♡

はあ♡

あ♡

あ♡

あ♡

あ♡

キュン♡

キュン♡

ぬりゅ♡

だらだら♡

だらだら♡

くははっ
すっかり上手に
なったのう

いつの間にか頭の中には
府使様との交尾だけが
浮かぶようになりました

こうして旦那様との思い出が
一つ一つ府使様との情欲で
塗り潰されていく内に

最後に絶頂を迎えてから
もう半月が過ぎたか…
くくくっ

ああ…
この男らしい雄の匂い…

何度嗅いでも
うっとりしちゃう…

あ…最高…!

穴が疼いて
仕様がないう頃じゃな

ちゃっ♡

うっ♡
うっ♡
うっ♡

くん♡
スー♡
ハー♡

慎みの欠片もない
発情期の牝犬じやのう

すぐにでもお前の
牝穴を掻き回したい気分は
山々なんじやが…

不審者が町でわしについて
調べているとのことじや

官衙カンガ※に寄ってみないとな

今日はもう充分じや

※官衙：官庁のこと。

行かないで…

嫌…

お尻を振りながらも
睾丸を舐め回すとは…

どうか今日は…
この太い一物で
私にご褒美を…!!

おお…
また新しい芸を
一つ覚えたか
偉いのう

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

ちゅっ♡

セロ♡

ドク♡

はあ♡

あぁ♡

プ♡

プ♡

ん♡チゅ♡

うっ♡

チゅ♡

ん♡

ん♡

ん♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

♡

府使様…
いや、旦那様…!!

そんな…
滅相もございません!!
私はいつまでも
旦那様の忠実な牝犬です!!

子を孕めと仰るならば
身籠るまで何度でも
旦那様の子種を
お受け取りします…!!

どうかこの卑しい小娘に
旦那様にご奉仕できる
機会をくださいませ!!

口では何とも言える
お前がわしを裏切らない
という保障がどこにある?

ああ♡

お願いします…♡
♡ 卑しい退妓の娘の分際で
♡ 一生旦那様専用の女に
♡ なります♡

♡ どうか私の体を…
♡ 私の牝穴の奥を…
♡ もう一度掻き回して
♡ 本心に申し訳
♡ ございませんでした
♡ どうかもう一度…!!
♡ もう一度あの快楽を
♡ お与えくださいませ!!

灯かりが?!

戻るまでこんなにも
時間が掛かってしまう
とはな…

僕たちが
将来を約束した場所…

あらー
夢龍じゃない

本当久方ぶりねー

ウオルメ
月梅?!

夢龍様ー
おなご
女子が必要ではありませんか?
十両でお相手しますよ?

態度が違いすぎる
何があっただ?

長旅で疲れているでしょう?
私たちが御持て成ししてあげるわ

何を企んでいる?

何の真似だ!!

チニヤン
春香は
どこにいる!!

チニヤン
春香は今
とーっても忙しくてね

?!
何

ん
あ
ん

ああん♡♡

あ♡

ほら
あそこチュニヤンに春香が
見えるじやろう？

どうやら今日は
府使様の子を孕む
つもりらしい

もう何時間も
休まずに
腰を振っているのだから

フュツ

バ
チ
ユ
♡

パチュ

ああ……いい……!!
気持ちいい……!!

太くて：
大きくて：
気持ちいい

春香があんな…
あんな下品な声を出すはずが…

今まで何度も
手紙を送ったのに
返事が全くなかった!!
春香は今どこにいる!!

もう遅い
私からの最後の忠告よ

酷い目に遭う前に
立ち去るのが身のためよ

まあだ私が全部
燃やしていることに
気付いてないようだね

くっ!!

水ぼらしい身なりを見ると
科学にも落ちたんでしょう?
没落両班の倅のくせにね

それでよく
帰ってくる
勇気が出せたものね
素直に感心するわ

騒々しいのう

キーン...

あら、ちようど今
もう一度子種を
頂いたようだね

嘘だ!!
あんなのが
春香はずがない!!

ほれ
お前が切実に待っていた
夢龍モンニョウが帰ってきたようだぞ？

挨拶くらいしてやれ

オッ♡
オゴッ♡
オゴッ♡

?!

陰門と乳房のほくら...

間違いない...
春香だ...!!

でも...本当に...
お前なのか...?!
春香...!!

パン

パン

ぐんぐん!!

パン

夢龍との五年より…
府使様との一か月が…
もっと大切になっちまった…

本当に…
ごめんなさい…

府使様との不貞を…
楽しみました…

一か月の間…
ずっと…毎日毎日…

♡
耐え切れなかった…

府使様の一物に…
掻き乱されて…

夢龍…
ごめんなさい…

♡
ああ♡

♡
おん♡

♡
あ♡あ♡

♡
パン♡

♡
ああ♡

♡
あ♡

府使様の…
女になっちまったの…

違う…
時間を掛けすぎた
僕が悪かったんだ!!

私は…もう…
すっかり…

もう少し…
もう少しだけ…

もう少しだけで
充分だったのに…!!

オ…オゴゴツ…
く…来る…!!

どうか…あなたの子宝を…
私に授けてくださいませ

ああ…嬉しいです
旦那様…

あつ…!!
行きそう…!!

ほれ
その記念にお前が欲しがる
わしの子種をお前の中に
ぶちまけてやる

感動的な再会じゃな…

おまん♡

おまん♡

おあ♡

あん♡

お♡

お♡
お♡

おああーん♡

もうやめろオオ!!

行くっ…
行きそうです
旦那様!!

ああ
思う存分
行けエ!!

パ♡





ア
メン
オ
サ
暗行御史のお出ました!!

四か月後

<<<...

そろそろ…
教えて差し上げないと
行けませんね

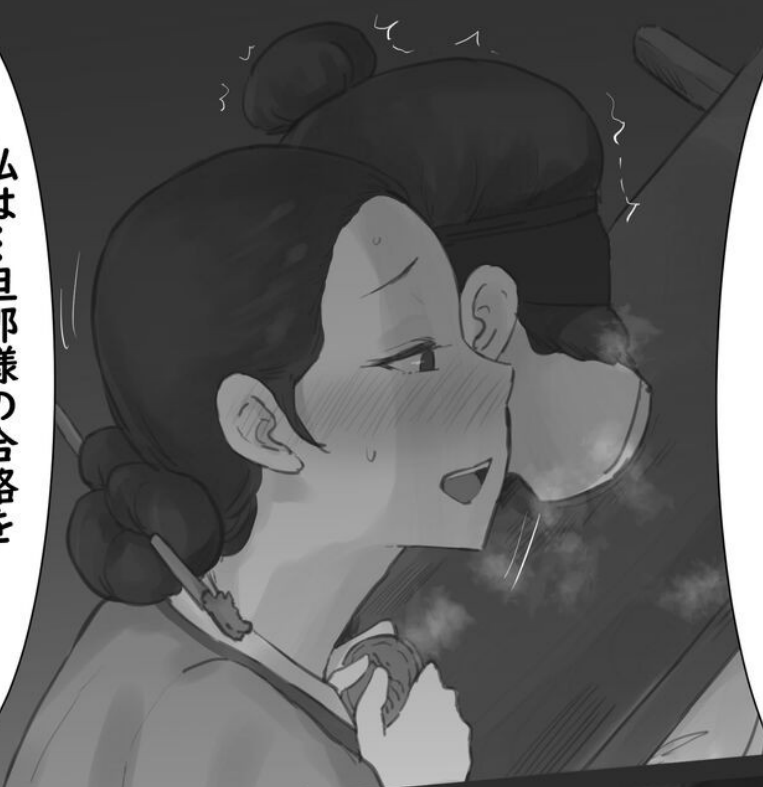
あれから随分
経ちましたし…

カハハハッ!!

くくく…



本物の馬牌!!
どうしてそれを
お前が?!



ただ…私はこれから生まれるだろう
子を想って夫を守ったに過ぎません

私は…旦那様の合格を
確信していました
ずっと信じていましたから



馬牌を偽物に
すり替えるため…!!

チニヤン
春香の差し金で…!!



ウォルメ ヒヤンタン
月梅と香丹の様子が
おかしかったのは…

ごめんなさい



いつも理性より
感情で動く方でしたから

旦那様を騙すのは
とても簡単でした

誰にも分かってもらえず
虚しく散つてしまっても
おかしくないでしょう

たとえ濡れ衣を
着せられた
ただだとしても

偽物の馬牌で
王命を受けた御史を詐称した罪…

嘘…だ…

春香…早く
その馬牌を渡してくれ…
今でも…遅くない…

まだ…間に合う…!!

そんなに悲しまないでください
旦那様…
世間的にはもう死人同然だとしても

旦那様がここで寂しい思いをしないように
三人で一生見守って差し上げますから

終わり



おおお…
これは中々…
だけど舌使いは
まだまだじゃな

そうそう
乳房はもっと寄せろ

めまいがするほど
強くて汚い匂い…

下の玉も
忘れるな

うむ…
呑み込みが早いのもう



ハハハッ
教え甲斐があるのう



手を休めるな
ちゃんと上下に動かせ



イモコ
李夢龍か…
くくくつ…

既に合格しているとしても
わしと張り合いたければ

寛大な気分にな
ってしまおうのう

だけど
お前の乳房に
包まれると

わしがその気になれば
その若造を不合格にするのも
容易いこと

御史※の馬牌※くらいは
持つてこないと
話にならないじやろう

さあ
わしの子種じゃ
受け取れイ!!

ギュッ♡

ビュルッ
ビュルッ

おあん♡

あ♡

おあ♡

※御史：王の特命を受けた隠密検察官
※馬牌：御史の証

二年も戻っていない
ということは
落第し続けている
ということじゃろうな

旦那様なら必ず
成し遂げて下さる

さあ
口を開けろ

全部飲め

何年かかろうと…
必ず…

無駄な希望は
捨てるのが
身のためじゃ

夢龍モンリウの記憶は徐々に
お前の中から薄れてゆき

肉欲だけが残る
じゃろうからな

体は汚されても…

旦那様への…
想いだけは…

どうか…中に…
入ってくださいませ

どうか…お許してください

私の不貞を…

欲しいでございます…

旦那様…

男根が…

やめ…!!

クハハハハッ これは
予想以上の一品じゃのう

痛…痛いです!!

おお…
いい締め具合じゃ…!!

い、痛っ…!!

ズブズブ…!!

ギチッ♡

ドクン

ドクン

ドクン

ドクン

大きすぎて…
中が火傷しそう…

うっ…
うっ…
苦…しい…

じゅるー♡

あ
あ
あ♡

締めりがどんどん
良くなっている…

じっとしてわしの形を
感じてみるといい

はあ♡

奥の方がどんどん
わしに慣れていくのが
分かるじやろう？

本番が始まる前に
わしの形、重さ、
そして温もりまで

全部覚えるのじゃ

つまり…

ああ♡

じゅる♡

はあ♡

はあ♡



...

今出発しても一か月は
掛かるだろうに…
船賃はちゃんと
用意してください

わしの専用になる
ということじゃ
くくくっ

さあ
頭を上げて
見てみるが良い

お前の牝穴が
わしの男根を
咥えているのが
見えるか？

痛い…
痛いでぐにいます

痛っ…！

女あ♡

あ♡

あん♡

感じる…
府使様のものが…
中を掻き
回しているのが…！

うむ…！
締め付け方が
分かってきた
ようじゃのう！！

こんな感覚…
変…
息…苦しい…！！

はあー♡

安心せい
慣れるまで何回でも
付き合ってやろう

あぁ♡♡

あん♡

パンパン

痛みが徐々に
快楽に変わって
行くのが分かるか？

あん♡♡

はん♡

うん♡

時の流れを
忘れてしまうほど

気を失って
取り戻すことを
何度も繰り返し

府使様はそれからも
まるで淫欲の獣のように
私の中を掻き回し続けました

パンパン

あぁ♡♡

そしてその日から
府使様は…

ん♡♡

ずっとずっと府使様は
私の身も心も絶え間なく
貪り続けたのです

もっと入れて
欲しいか？
くくくっ…

お前の旦那よりも？
そんなに男根が恋しいか？

ふうっ…!!

またその次の日も…

お願いします…
あと少し…あと少しだけ…
もっと入れてください…

ああ!! 府使様!!
もう少し…もう少しで
行きそうです!!

はうっ!!

今日はここまでだ

府使様は決して
私が絶頂に達することを
許してくれませんでした

次の日も…
その次の日も…

ゆら♡

ゆら♡

はあ♡

あ♡

はあ♡

はあ♡

あ♡

う♡

あ♡

あ♡

あ♡

あ♡

キゅ♡

キゅ♡

ぬり♡

だら♡

だら♡

夢龍との五年より…
府使様との一か月が…
もっと大切になっちまった…

本当に…
ごめんなさい…

府使様との不貞を…
楽しみました…

一か月の間…
ずっと…毎日毎日…

耐え切れなかった…

府使様の一物に…
掻き乱されて…

夢龍…
ごめんなさい…

ああ♡

あん♡

あ♡あ♡

パン

パン

パン

ああ♡

ん♡

あ♡

府使様の…
女になっちまったの…

違う…
時間を掛けすぎた
僕が悪かったんだ!!

私は…もう…
すっかり…